

## 社会的・政治的表現の指針

私たち学校区は、バーチャルでも対面でも、学校内で社会的・政治的視点を表現する適切な方法について、スタッフと地域社会の皆様から多くの質問を受けました。私たちは、生徒、ご家族、スタッフが幅広い政治的な信念を持っていることを理解し、また感謝しています。

## 私たちの立ち位置

学校区では、あらゆる種類の憎悪・人種差別・差別を助長しない範囲で、すべての視点を尊重します。学校区の [Educational Equity Policy](#) に記載されているように、教育における公平性とは、人種、民族、肌の色、宗教、国籍、移民ステイタス、言語、経済状況、年齢、文化、地理的位置、移動能力、性別、性的指向、性の公平性、性表現、障害に関する包括性と社会的正義のことです。

私たちは、**Black Lives Matter**（黒人の命は大切）を支持します。

私たちは、"**Black Lives Matter**"は積極的な社会正義の声明であり、歴史的にアメリカの教育システムによって十分なサービスをこれまで受けてこなかった黒人や先住民、その他の有色人種の生徒に対する私たちのコミットメントと一致していると信じています。これは、学校区がこれらの生徒に十分なサービスを提供してこなかったことを示唆する、私たち自身のシステムにおける格差（すなわち、卒業率や処分を受ける率）を認めるものです。

私たちは、組織されたグループや政治的キャンペーンを支持しません。

私たちは、州教育委員会の最近のオレゴン州教育省による [All Students Belong](#) と呼ばれる行政規則の可決を支持します。それは、全ての人を歓迎する学校風土を作ることによる、生徒と教育者の健康と安全に焦点を当てています。また、学校における憎悪のシンボル（ナチスのカギ十字、絞首刑を連想させる縄、南部連合国旗など）を禁止しています。

私たちは、公立学校が不寛容さに時間を割くことなく、これまで平等に扱われてこなかった人々への寛容を促進する能力を持っていると信じています。また、[Student Code of Conduct](#) に記載されているように、生徒や教師が憎悪に満ちた言葉を使用したり、憎悪のシンボルを表示したりすることを禁止できると考えています。

## 教室への影響

私たちは、特にこれまで最も疎外されてきた生徒を中心に、全ての生徒に文化的に関連した、彼らのニーズに応えられる、また包括的な環境を提供することで、反人種主義の学校区になることを約束します。

私たちは、低学年の生徒から、学校区の全学年においてこの活動に取り組んでいきます。今後数週間以内に、K-2年生の生徒たちは、[Oregon K-12 Social Sciences Academic Content](#)

[Standards, K-5 Social Studies Essential Questions, Oregon Ethnic Studies Standards \(draft\)](#)に沿った年齢に応じたカリキュラムの中で、アイデンティティ、多様性、人種と差別について学びます。この取り組みは、高学年の社会科の授業でも継続して行われ、重要な会話を育み、生徒が自分の周りの世界を理解するための安全な空間を作っていきます。例えば、私たちは今、米国の歴史の中でも大きな社会運動の中にいます。黒人の生活問題やそれに関連する社会運動、そしてそれらの運動に対する様々な反応について、生徒たちに議論させないことは、リアルタイムで本物の学習に取り組む機会を失うことになるでしょう。

私たちは、社会科以外の分野も含め、全ての教室で生徒が多様な視点から学び、学校内外で公平性を促進するための行動を起こせるような環境を提供することを約束します。

私たちは、これらの会話が、政治、宗教、その他の文化的な問題に関する個人的な価値観や信念を宣伝したり擁護する場ではないことを理解しています。教育者としての私たちの役割は、[School Board Policy INB](#)に記載されているように、寛容で包括的な環境の中で問題についての会話を促進することです。

### **許可される行動**

私たちは、教室が物理的なものであれ仮想的なものであれ、全ての生徒を歓迎する空間であることを望んでいます。私たちは、スタッフと生徒に [freedom of expression](#)（表現の自由）の権利があることを認識していますが、その表現は教育環境を混乱させるものではないこと、また他者が教育を受ける権利を侵害しないものである必要があります。

スタッフは、自分の個人的な行動や表現が生徒に与える影響や、特に視点が異なる生徒の議論への意欲を考慮する必要があります。教育者として、私たちは会話を抑制するのではなく促進したいと考えています。

許可されているものの例は以下の通りです：

- スタッフが **Black Lives Matter** と表示されている服やボタンを、物理的に着用または仮想でアバター（自分に似せたキャラクターアイコン）に着用させること。スタッフが、物理的・仮想的を問わず、**Black Lives Matter** の旗を掲げること。
- スタッフが、**LGBTQ** の権利を支援する服やボタンを、物理的に着用または仮想でアバターに着用させること。スタッフが、物理的・仮想的を問わず、**Pride** 関連のサインや旗（レインボーフラッグ）を掲げること。
- [Oregon Administrative Rule ORS 260.432](#) に基づき、スタッフが、特定の政治家候補者や政党を支持したり、キャンペーンスローガンが表示されている服やボタンを、物理的に着用または仮想でアバターに着用させること。
- その他の教室での個人的な表現は、教育環境に大きな支障をきたさない範囲内であれば許容される可能性がある。

- スタッフは、業務時間外であれば個人のソーシャルメディアアカウントへの投稿や他者のアカウントへのコメントを、個人の見解や意見として行うことができる。ただし、その内容が業務に著しい支障をきたす可能性がないか、注意すること。

許可されないものの例は以下の通りです:

- 州教育委員会の管理規則, [All Students Belong](#) に基づき、ナチスのカギ十字、絞首刑を連想させる縄、南部連合国旗などのシンボルや画像。
- 白人至上主義や憎悪の象徴
- “Build the Wall” などの、排除を支持または奨励するスローガンをスタッフが着用または表示すること。
- スタッフが、教室や仕事場（物理的・仮想的を問わず）に、特定の候補者や政党を支持する選挙運動のポスターや看板を掲示すること。
- スタッフが、自分の政治的見解や意見を学校や学区のソーシャルメディアアカウントへ投稿すること。
- スタッフが、学区の email 署名部分をスローガンや思想・哲学的な文言を加えて変更すること。

学区ポリシーについてご質問や懸念がある場合は、以下までメールにてご連絡下さい。

[David.Williams@beaverton.k12.or.us](mailto:David.Williams@beaverton.k12.or.us) (Executive Administrator for Strategic Initiatives)

### 私たちの理想像

私たちは、全ての生徒とスタッフが歓迎また評価され、意見を聞き入れる反人種差別的な学区になるよう努力します。事実に基づいた情報を提供し、建設的な対話を奨励し、また安全な空間を作ることで、生徒たちは批判的思考力を発揮し、自分の決定を下すことができるようになります。

この重要な課題において、皆様のご協力に感謝申し上げます。